

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470206156		
法人名	有限会社 谷浦産業		
事業所名	グループホームくつろぎ		
所在地	広島市佐伯区利松一丁目26番13号 (電話) 082-927-5557		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470206156-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年2月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

4階建てマンションの3階を改装したグループホームです。「挨拶は、明るい笑顔絶やさずに、目配り、気配り、思いやり、真心こめて尽くします」という理念の下、暖かい家庭的な雰囲気を作ることを目標にして取り組んでいます。また、新鮮な食材で美味しい料理を提供するためにスタッフが毎日、地元のスーパーで選んで購入した食材を使い家庭的な食事を提供するようにしています。さらに、役割をもって家事を手伝って頂いたり、体操や散歩などで日々の生活の中で身体を動かす機会を作ったり、高齢者に合わせた歌や映画などの映像や音楽を積極的に活用したりすることで、認知症のある高齢者が健康で穏やかに過ごせるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームくつろぎは名前が示す通り、くつろげるホームの雰囲気で満たされています。静かな住宅地に立地しているマンションの3階部分全体がホームとなっていますが、入居者の皆さんは、支援スローガンとされている「挨拶、笑顔、真心、気配り・目配り」に支えられながら、ゆっくりと自由に過ごされています。ユニットの中で利用者と職員は疑似家族的親密感が保たれ、ゲームやカラオケ、おやつ作り等共に興じて過ごす時間を持たれ、利用者の日常の思いや要望の把握に繋がっています。又事業者が高齢者の一番の楽しみとされる食事の提供には特に重点を置かれ、職員は新鮮な食材で豊富なメニューでの調理を心がけ、利用者は食事時間を大変楽しみとされている。認知症介護経験が豊富で、認知症サポーターを担われている管理者は、今後もこの家庭的な雰囲気を基盤としつつ、改善点を見つけながら介護の質の向上を目指されています。

グループホームくつろぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「挨拶は明るい笑顔絶やさずに、目配り、気配り、思いやり、真心こめて尽くします」という事業所の理念を玄関とリビングへ掲示して、1日に1度は利用者の前で唱和することでホーム全体で共有するようにしている。	事業所の理念は玄関とリビングにわかりやすく掲示され、昼食前に利用者が着席されている前で、事業者、管理者、職員一同で唱和され、和やかな共有の情景があった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して、清掃活動へ参加している。また公民館で行なわれているサロン会、敬老会などの諸行事にもできるだけ参加するようにしている。	町内会に加入され、清掃や地域の諸行事に参加している。事業者が地域に永年居住されており、地域との親密な関係が継続され、公民館でのサロン会や敬老会に声掛けを受け参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症実践リーダー研修を修了している管理者を中心に認知症の理解や支援の方法を積み上げている。現在は認知症サポーターとして地域の人々に発信する準備をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の定期で年に6回、当ホームのリビングで運営推進会議を開催している。会議には利用者も参加されるので、偽りのないサービスの状況や事故・ヒヤリハットの報告をした上での意見交換の場となっており、サービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議には町内会長、民生委員、学区社協ボランティアコーディネーター、地域包括センター、事業者、管理者と共に殆どの利用者も参加し、ホームの現状報告やヒヤリハット報告をし、幅広い皆さんの意見や助言を頂きサービスの向上に役立てている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市や区の担当者とは日頃から電話や窓口で相談の連絡を取り連携を保っている。また、市や区が主催する研修会や勉強会にもできるだけ参加するようにしている。	書類関係の疑問や質問は主に市役所の窓口へ伺い、個々の利用者についての手続きの質問や報告は区役所に相談して法に沿った扱いが出来る様連携を保っている。市や区が主催する研修会や勉強会には出来るだけ参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営規程に身体的拘束等の原則禁止を明確に定めている。運営規程に沿った対応や体制の整備を行って日中の玄関の施錠、ベッドを柵で囲う等を含めて身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	現状の入居者は要介護度が全体的に軽度であり、日常生活に於いては寄り添った個別対応がされ、日中の玄関施錠はなく、身体拘束の無いケアが持続している。職員は運営規定に沿って身体拘束や虐待の無いケアについて研修やミーティングで理解し確認しながら支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営規程に虐待の防止を謳っており、虐待防止マニュアルを整備している。また、研修への参加や配布される資料などを通じて学ぶ機会を持つようにし、それを職員間で話し合うことで理解を深めるようにしている。		

グループホームつるぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	行政の主催する研修や配布される資料などを通じて学ぶ機会を持つようになっている。また、運営規程に人権の擁護を謳っており、成年後見制度の利用支援も含めて取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書時には重要事項説明書を読み上げながら説明し、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ねて十分な説明を行い理解・納得してもらっているようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議へ利用者や家族が参加されている。意見や助言を頂いて、それらを運営に反映させるようにしている。	家族の面会時には努めて意見を求めるように話し、運営推進会議に於いて利用者や家族より寄せられた意見や要望を優先して検討し、共有して運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフの意見を聞く場として、スタッフミーティングを適宜開催して意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	連絡簿やスタッフミーティングで率直な意見交換が行われ、管理者は事業者との意思疎通を行い、より良いケアに向けて職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者や管理者は個々の努力や実績、勤務状況を把握しているが、各自が向上心を持って働けるような職場環境・条件が整備されているとはいえない。現在、必要な体制を整備していくため介護職員処遇改善加算の申請を準備中である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	認知症ケアの向上のため、管理者や職員に認知症介護実践者研修や認知症介護実践リーダー研修を受ける機会を作っている。現在はキャリアアップ助成金制度を活用したOJT、OFF-JTでのトレーニングや介護福祉士へのステップアップを援助するため、介護福祉士や実務者研修修了者に手当での支給を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は同業者との交流会や勉強会に参加しているが、職員の参加は少ない。今後は、職員の参加を促していくとともに、積極的に参加した職員を評価するなどしてサービスの向上への意欲を高める努力をしていきたい。		

グループホームつるぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、本人の思いや不安などを傾聴するようにしている。その上で基本情報や生活歴、趣味、嗜好などの情報を収集して、その人らしい安心した生活が送れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の利用者の基本情報や家族からの事前相談などを利用し、家族の思いや不安などを傾聴するようにしている。また、サービス開始時期の家族の不安やストレスに寄り添うことで信頼関係を作るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用を開始する段階で、まず必要な支援を本人や家族と共に見極めて、グループホームのサービスだけに捉われずに必要に応じて居宅療養管理指導や歯科往診、訪問看護、地域のサロン会、理美容サービスなどを取り入れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は、本人の思いや性格を受け止めて、生活歴などを参考にしながら本人ができることや役割を考えながらケアするようにしている。できるだけ洗濯や調理、清掃、片付けなどを利用者と一緒にしながら共々することで信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、本人が家族とゆっくりくつろいで面会できるように話す場所に配慮したり、お茶菓子を提供したりするようにしている。また、電話の取次ぎなどもなるべく自由にできるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れることのないように可能な限り親戚、友人、知人に面会へ来てもらえるように配慮している。また、なるべく敬老会や馴染みの店などへ行くように支援している。	入居前に馴染みにされていた喫茶店や理髪店に職員が同行して定期的に行き、喜ばれている。利用者の要望により携帯電話の手続きの支援をし、自分で友人に連絡されるようになられて、友人の訪問が実現されホームでの生活に張りを持たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合いがもてるように利用者同士の関係を把握して、リビングで過ごす場所や食事をとる座席の位置を配慮するなどの支援に努めている。	一人ひとりが孤立せずに関わり合いがもてるように利用者同士の関係を把握して、リビングで過ごす場所や食事をとる座席の位置を配慮するなどの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了した後も、必要な情報提供や本人や家族からの相談に応じるなど退去後も本人や家族をフォローするようにしている。		

グループホームつるぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にご利用者や家族の思いや希望をアセスメントすることで意向の把握に努めるようにしている。また、介護計画はパーソンセンタードケアやICFの考えを基本に検討するようにしており、本人の意向がはっきりしない場合も本人本位のケアになるように検討している。	職員は日常に個別ケアしながら交わす会話の中から、希望や意向の把握に努めている。1カ月に1回アセスメントを行い本人や家族の意向の把握をし、管理日誌で職員が共有して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントで本人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。また、入居後も必要に応じて会話の中で馴染みの暮らし方や嗜好を尋ねるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活やケアを記録し、毎日バイタルチェックを行い記録する他、食事や水分量、排泄なども記録して入居者の心身状態や今していること、できること的能力を把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居時のアセスメントと入居後の生活をもとに介護計画を作成し、本人や家族の理解を得るようにしている。その後は定期的なモニタリングを行い本人や家族、介護、医療、看護スタッフと話し合いながら状態の変化によって随時見直しを行うようにしている。	介護計画の見直しは6か月毎としているが、1カ月に1回のモニタリングを行い、本人や家族の要望を受け入れつつ、医師や看護スタッフの意見を組み入れて介護計画を作成している。出来上がった計画書は今一度職員間で見直しして補正等も行って支援に移行している。	介護計画作成時は本人や家族、各部門の担当者が成るだけ多く出席された担当者会議を行い、意見の記録を十分にされることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活をケア記録へ記入すると共に、介護計画のモニタリングを定期的に行っている。また、スタッフの気づきや工夫なども連絡ノートへ記入しスタッフ同士で共有して介護の実践や介護計画の見直しにつなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	居宅療養管理指導や歯科往診、訪問看護を取り入れるなど、柔軟な支援やサービスを取り入れるようにしている。また、訪問美容や地域の公民館で行われているサロン会などのインフォーマルなサービスも活用するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議などで地域の皆様から地域行事やボランティアによる行事、高齢者の散歩に適した場所など地域資源の情報を得るようにしている。また、入居者が地域に出て行って参加することで、安全で豊かな暮らしを継続できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の希望を大切にしながら、納得のできるかかりつけ医による往診や受診の支援をしている。また、特に希望がない利用者には生協さえき病院の居宅療養管理指導をサービスに取り入れるようにしており、利用者全員が適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人、家族の希望を受け入れ、特に希望がない方にはホームの提携医療機関をかかりつけ医とし居宅療養管理指導をサービスに取り入れている。医療機関からは2週間に1回の医師の往診と隔週での訪問看護を受け健康管理が保たれている。	

グループホームつるぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	コープ五日市訪問看護ステーションと連携して、入居者の体調のことなどを普段から看護師と相談できるようにしており、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際に安心して治療できるように、普段からかかりつけ医や訪問看護師などの病院関係者と情報交換をしている。また、入院中も入院先を訪問し、本人や家族と面会して相談に努めると共に、医師や看護師などと情報交換して、できるだけ早期に退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	「重度化および終末期介護対応の指針」を定めていて、入居時に利用者・家族に説明している。その上で、実際に重度化や終末期に入られた場合に事業者としてできることを十分に説明して本人や家族等と話し合いながら方針を共有して支援を行なえるように努めている。	重度化及び終末期の介護対応の指針を書面で入居時に説明している。実際に重度化や終末期になられた場合はホームとして出来る事を十分に家族等と話し合いながら方針を共有して支援に繋げている。医療機関、看護ステーションとの連携は確約されいつでも対応できる体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを整備し、入居者急変時の対応フローチャートを職員がいつでもすぐに確認できるように各所へ掲示している。また、職場内で研修を行うことで実践力を身につけるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練・避難誘導訓練を実施してスタッフが災害時の対応を身につけられるように努めている。また、グループホームには避難器具やスプリンクラーを設置済みであり、同じマンションの住人と共同防火管理協議会を設置している。	年2回の消防訓練、避難誘導訓練を全員参加で実施している。避難初期対応としては、利用者全員を最初にベランダに誘導することを消防署より指導された。同じマンションの住人と共同防火協議会を設置している。管理者は建物防災管理者研修を受講済である。	次期の防災訓練には夜間想定での訓練をされることが望まれる。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	『思いやり』を持った言葉かけや対応を理念に掲げており、スタッフには、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応に気を配るように指導している。	管理者を中心に理念に沿った優しい言葉で利用者との対話がされている。職員より利用者の「笑顔や喜びの言葉」が日々の支援で遣り甲斐となっているとの発言があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で本人の思いや希望を表しやすい雰囲気を作るように努力している。また、支援を押し付けるようなことはしないで自己決定ができるような言葉かけをするように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は本人の体調や他の利用者に影響が及ばない範囲で本人のペースや希望にそって援助するようにしている。具体的には、散歩や買物などの外出に付き添うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、顔拭き用おしぼりで顔を拭いたり、整髪したり、髭剃りしたりできるようにして身だしなみを整えられるように援助している。また、希望者には訪問美容サービスを受けられるように援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	安心して食事ができるようにスタッフが見守りや食事を共にするだけでなく、献立を利用者と一緒に考えたり、下ごしらえを手伝って頂いたりすることで食事が楽しめるように支援している。また、下膳や食器拭き、テーブル拭きなどの後片付けも職員と利用者が協力してするようにしている。	毎日の献立は利用者の要望を取り入れながら、新鮮な食材を購入し、利用者が下ごしらえの手助けをしつつ職員が調理して提供している。食事は事業者、管理者、職員と共にテーブルを囲み家庭的雰囲気の中で支援されている。誕生会のケーキや手作りのおやつを職員と共に作ることを楽しみとされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事摂取量と水分摂取量を記録して把握することで、バランスのとれた栄養補給や水分摂取の支援をしている。また、一人ひとりの状態に応じた食事形態や食材、食事を提供にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	生協さえき病院歯科と提携しており、一人ひとりの口腔状態について相談や指導、治療を協力しながら支援している。また、歯科の指導に基づいて、毎食後に一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行い記録するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人の排泄状況にあったパンツ・オムツ・パット類を選択するように努力している。また、なるべくトイレで排泄ができるように一人ひとりの排泄パターンを把握して援助するようにしている。	食事前後の誘導を基本とし、排泄管理表で把握している一人ひとりのパターンで寄り添ったトイレ誘導の支援をしている。夜間はトイレ巡回表によっておむつ交換やトイレ誘導を行い記録をして申し送りがされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の多い食材を取り入れたり、適度な水分補給を促したり、本人の好きな飲物を提供したりするようにしている。また、適度な運動を支援するため体操や散歩をケアに取り入れて便秘を予防するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は月曜～土曜で一人ひとりの入浴日は決めずに希望で入浴できるように援助している。食事などの介護や職員の配置の都合で入浴時間は13:15～15:00にさせてもらっている。	1人ひとりの入浴日は決めていないが、希望されれば午後にはなるがすぐに応じるようにし、殆どの方のパターンは把握しており、週2回は入浴されるよう声掛けをしている。入浴を拒否される方には、時間や誘導する職員が交替する等話題に変化を持たせて、入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分で移動できる方は、思い思いに休憩されている。介助が必要な方も、その時々状況に応じて休息がとれるように援助している。寝具類は気持ち良く休めるように管理表を用いて清潔を保つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が服薬内容についての情報を理解し、いつでもすぐに確認できるようにファイルを整備している。また、服薬管理は『準備・提供・記録』の3重のチェック体制で服薬の忘れや誤薬を防ぐようにしている。		

グループホームつるぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴や能力に合わせて、食事の準備や後片付けなどの家事を役割を持ってできるように援助している。また、利用者の嗜好に合わせたレク、音楽、ビデオなどを提供するようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望を聞いて雨天を除いてほぼ毎日、外を散歩できるように援助するだけでなく、希望される利用者には、行きつけのお店への外食や買物などの同行も可能な限り支援するようにしている。また、地域の敬老会やサロン会などにも出かけられるように地域の人々と協力しながら支援している。	ホームの近くには自然豊かな川土手があり、散歩コースに最適となっている。外出支援としては利用者の希望を叶えられるように、行きつけの店での外食や買い物、散髪等に同行支援をしている。又敷地内での畑を利用して作物の植え付け、収穫を楽しまれ、収穫物は食卓にのせられ喜ばれている。地域住民の温かい受入があり、敬老会やサロン会に加わられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を管理できる能力があるには利用者は、自分の財布を持って頂いており買物などされている。また、ホームによる金銭等の管理は『金銭管理規定』に基づいて、利用者と金銭管理契約を結んだ上で適切に管理するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族などからの電話の取次ぎはもちろん、希望される利用者は、ホームの事務所の電話を使って家族や友人へ連絡されている。また、手紙のやり取りも、代読や代筆も含めて一人ひとりに適切にできるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは南向きで明るく、ソファやテレビが置かれていて、レクリエーションで作った作品や季節の花を飾るなどしている他、利用者が楽しめるような音楽やDVDなども準備されている。また、共用空間の空調、照明は快適な状態を保つようにしている。	食堂を兼ねたリビングは南向きで大きな窓からの採光は明るく、ソファでゆったりできる空間が創られている。対面キッチンへの出入りも自由にされ、訪問当日の午前中は、数人の利用者と職員はトランプゲームに興じられていた。昼食後の寛ぎには、カラオケの曲が流れ、ゆったりと座って利用者同士で合唱され、生活感のある家族的な雰囲気を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを置いてくつろげる空間を演出したり、独り用のテーブルセットを置いたりして共用空間で一人ひとりが思い思いに過ごせるように工夫している。また、利用者同士のコミュニケーションが良好になるようにテーブルや席の配置に気を配ったりするようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	洗面台、ベッド、タンスは備え付けとなっているが、その他の家具や備品については、本人や家族等と相談しながら利用者が使い慣れた生活用品や装飾品、写真などを持ち込んでもらうことで思い思いに自分の部屋として居心地よく過ごせるように工夫している。	ホームで備え付けられている洗面台、ベッド、タンスの他に家庭から使い慣れた小机や座椅子、小物入れ、親しい方の写真等が持ち込まれ、利用者の生活歴や思い出を大切に、安心できる居場所づくりが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの能力に合わせて、安全に生活できるように廊下やトイレ、浴室の手すりの位置を工夫したり、備品の配置やトイレトペーパーの使いやすさにまで気を配るようにしている。		

グループホームくつろぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームくつろぎ

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームくつろぎ

作成日 平成 27年 1月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	職員各自が向上心を持って働けるような職場環境・条件が整備されていない。	職員各自が向上心を持って働けるような職場環境条件を整備する。	介護職員処遇改善加算を申請して職員の処遇を改善する。	3ヶ月
2	13	職員のキャリアアップを支援し介護の質や認知症ケアを向上させていく仕組みが充分でない。	職員のキャリアアップを支援し介護の質や認知症ケアを向上させていく仕組みを整備する。	キャリアアップ助成金制度を活用したジョブトレーニングを導入する。	6ヶ月
3	19	病気や遠方に住んでいることでなかなか面会できない家族等と本人の絆をつないでいく支援が必要と思われる。	ホームから利用者の日々の様子を家族等へ伝えていくことで本人と家族等の絆が途切れないようにする。	利用者の日々の様子を伝える広報誌『くつろぎ通信』を定期的(年4回)に発行する。	6ヶ月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。